

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500189		
法人名	社会福祉法人花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王(A棟)		
所在地	岩手県花巻市胡四王一丁目15-5		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=0390500189-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地条件の良さ:新花巻駅前にありながら自然がいっぱい。すぐ近くに熊谷家、宮沢賢治記念館、博物館、イーハトーブ館、新花巻駅等の文化圏にあり、外出先となっている。・きめ細かい対応:24時間シートを利用し一人ひとりに合った介護を実施している。・医療機関との連携:近くの開業医からの協力があり看取りの協力をいただいている。・近隣との関係:毎週近隣の方々との交流があり、歌やお話し合いで楽しいひと時を過ごしている。また、近くの保育園児との交流があり、運動会等に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東北新幹線新花巻駅の近く、近隣には古民家などがある農村地帯ではあるが、新築住宅も出来つつあり、混住化が進むと思われる閑静な地域に立地している。また、近くには博物館、賢治記念館、イーハトーブ館、童話村などの文化的施設もある。このグループホームは開設時は、NPO法人で立ち上げたが、近年社会福祉法人として認可され、安定した状況のもと運営できるようになってきている。法人の掲げる、利用者的人格の尊厳、ふれあいを大切にしたい自立支援、穏やかな生活が送れるようにという理念を掲げ、職員は毎朝のミーティング時に唱和し、具現化に向け、努力している。また、職員の資質向上のために上位の資格取得を奨励し、経済的支援も行っている。近隣住民との関わりでは、「金ママ」と称する地域の女性グループが毎金曜日に来訪され、ボランティア活動をしたり、自分たちでお茶飲みをしたりしながら、交流が行われている。協力医と連携しながら、看取りを行っていることも特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示板に掲示し、理念を常に意識しながら職務に反映するように努めている。	理念を毎朝のミーティング時に、出勤者全員で唱和し、お互いに内容を確認し合っている。職員は利用者の人格の尊厳を中心にして、言葉かけなどにも気を配りながら寄り添う支援を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くにある熊谷家や保育園の行事に参加している。地域の高齢者に交流スペースを設け利用してもらっている。	毎週金曜日には、「金ママ」と称する地域の女性の方々が来訪され、ボランティア活動をしたり、自分たちで交流したりという形がグループホーム創設以来続いている。また、近隣の保育園との交流、自作の絵手紙を家族に郵送するなど、変化のある生活が送れるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週金曜日に地域の高齢者が当施設に集まり、利用者との交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の割合で運営推進会議を開催し、意見、提言を事業所の運営に反映するように努めている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の事業所内での様子や福祉に関する時々の話題などについて話し合わせ、委員からは様々な提案がなされる。非常口のスロープの改善、事業所周辺の舗装などを実施することになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	NPO法人から社会福祉法人に移行する際などに花巻市からの指導や助言をいただいている。	介護認定の更新時には、担当窓口を訪問し、市主催の各種研修会には関係者が出席するようにしている。地域包括支援センターの担当者には運営推進会議に出席していただき、指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲示板に掲示し、職員が宣言の内容を理解しながら身体拘束のない介護に努めている。	身体拘束廃止宣言を掲示板に掲示し、宣言の内容を理解しながら身体拘束のない介護に努めている。転倒のリスクの高い方は、夜間ベッド脇に厚めのマットを敷いて怪我の防止に対処している。センサーの使用は無く、言葉の拘束にも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で職員の言動が虐待にならないよう喚起しながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等を通じ権利擁護の理解を深め入所者一人ひとりの権利を守りながら仕事に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、利用者、家族に契約書に沿って説明し、理解、納得、署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、運営規定を示して、説明し理解、納得を図っている。運営推進会議の委員に入居者も入っており意見、要望が反映できる仕組みを作っている。	家族の来訪時や電話等で、意見・要望を積極的に聞くようにしている。運営推進会議の委員になっている家族から、敬老会の会食の時、紅白まんじゅうも出したらという提案がなされ、実現している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員との話し合いを通じ、運営に意見、提案が反映できるように努めている。	隔週水曜日開催している職員の勉強会では、様々な運営についての提案がなされる。実施可能なものから全体職員会議に諮り、順次実施するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態や勤務の状況の把握に努めるとともに、就業規則、経理規程、退職金規程等の見直しを行い、職員の働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の資質の向上を図るため、自己啓発を進めるとともに職場内研修に取り組んでおり、各種研修会にも参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・認知症高齢者グループホーム協会のネットワークを通じ情報の収集や情報交換を行い、得られた情報を職員の資質向上や施設運営に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時に家族、本人から不安、要望を聞き、困っていることなども話してもらい、信頼される関係づくりの体制を整えている。 ・入居当時は家族の訪問を大いに歓迎している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族とよく話し合える時間を設けて良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントから本人の必要としている支援を見出し、対応できるようサービスの内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食事作り、誕生会、野菜づくり、小物作りなど共にできることを一緒に楽しみ関係を深めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画」を定期的に見直し、家族等の意向をお聞きしながら入居者の身体等の状況に沿ったケアになるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は365日24時間対応とし、電話があれば本人との会話ができるようにしている。外食、外出の際、馴染みの場所を確保している。	利用者の中で外食を希望する方を募り、ホテル等のレストランに出かけ、好きなメニューで食事を楽しむことなども行っている。また、近くの喫茶店に出かけ、コーヒーや軽食を楽しむこともある。家族からの電話等には丁寧に対応するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合える利用者は、外出、活動の場などで身近に位置するよう支援している。そのことによって支え合える仲間の意識が生まれてきている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了者等からの希望があれば必要に応じて、相談、助言に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時に本人、家族より希望をきいている ・常に本人の意向についての把握に努めている。その結果をケアプランに移行し実行している。	家族の希望や普段の会話や仕草などから、本人の思いや意向を汲み取り、記録しておき、職員で話し合い、ケアプランに活かすようにし、思いを叶えるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時あるいは入居してから日々生活の中で確認している(家事、趣味、娯楽等)ミーティングに職員に伝えている。 ・生活歴は特に大切にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日中、夜間の状態等、業務日誌、個別日誌、申し送りノートに仕事前に目を通す ・仕事前に勤務者3人でミーティングし把握の共有に努め、対応することになっている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の内容を職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。また、家族の面会時、本人の様子を伝え、希望を聞いている。	職員全員で利用者の「心身の状態」をよく観察・記録し、総括してケアマネジャーがプランを作り、実施に移すようにしている。さらにその結果を1か月ごとに職員全員で検討するようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日の業務日誌で記録、理解し職員間でそれを共有し実行している。改めたほうが良いことはすぐに話し合いで見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所のサービスは受けていないが、日々生活の中で要望に応じて対応している。ドライブ、外食、喫茶に行くなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、賢治記念館、新花巻駅、童話村、博物館、保育園などがあり、本人に合った利用の仕方です暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・できるかぎり家族の協力の下にかかりつけの病院を受診している。やむを得ない時のみ職員が同行している。・緊急時には協力病院を利用している(家族了承の下に)	かかりつけ医への受診は、原則家族が行うこととしているが、家族の都合により不可能な時は事業所で送迎を行っている。受診時は、利用者一人ひとりの受診ノートを持参し、医師が助言や指示事項を記入している。協力医との連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ケアマネージャーは看護師でもあるので観察のポイント等勉強会を通じて学んでいる。 ・普段の健康を観察し記録し管理している。(VS,W、耳、便)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院までの状態の記録を病院に提示している。 ・退院にあたっては、医師からのこれからの生活の注意を聞きこれからの介護に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して来ている時点で家族に説明し今後の確認をしている。また、終末期については、入居時に説明した後、状態に合わせ意志の確認を家族にした上で協力病院と連携をとっている。	利用開始時に家族から、「看取りについての同意書」を頂いている。重度化してきた場合は、その時点で家族、協力医と話し合いをして、今までの看取り経験を活かして、その後の方策を探るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての学習会を開き何度も研鑽を積んでいる。対応の仕方、連絡方法救急車を呼ぶなどのマニュアルができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自衛消防訓練を利用者を含め、全職員で行う。管理権限者、防火管理者、消防士を交え訓練、実施指導を行う。又、防災グッズや食料の補給、点検を行う。	年2回、消防署員から指導を受けながら避難訓練を実施している。うち1回は夜間を想定して夜勤者のみの対応で、日中に実施している。かつては近隣の方々、婦人消防隊員の方にも協力いただいていたが、今は困難な状態が続いている。	避難口のスロープの改善、事業所周りの舗装等を近々実施することになっている。夜間想定避難訓練を近隣住民の協力を得ながら、夜間に近い状況の中で実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、年長者として敬意、それを態度や言葉かけに反映させプライバシーに配慮するよう常に心がけている。	職員は言葉がけ、介添え等細かいところまで気を配りながら、利用者個々人に対応した介護をするよう努めている。入浴時は、本人の了解を得て異性介助も行われている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の見守り支援の中から本人の思い、希望を察知し、その情報を職員間で共有している。穏やかな雰囲気満ちているので自己決定を尊重している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にするために個々に合った支援について話し合い、理解、認識を深めて対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は定期的に行い、外出、季節や気温に適したおしゃれを楽しんでいる。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意の分野で調理に参加できるよう、畑の収穫から、野菜のきざみ、味付け、おやつ作り、配膳、後片付け等、各人の好みや力に合わせて作業を行っている。主食も一律にせず米飯、粥、麺、パンと柔軟に対応している。	食事作りでは、利用者の持っている能力を引き出すよう食材の下ごしらえ、配膳、下膳、食器拭きなどをやってもらっている。食材の一部は事業所の野菜畑で作られたものを使うようにしている。職員の中に栄養士、調理師の資格を有する方がおり、その職員も関わっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にするため、一人一人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態により、とろみをつけたりしている。又、月毎の体重変化を見逃さず、食事や間食の量、献立の中身を個別に変えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔ケアの実践を歯科医の指導で行っている。 ・自分でできる人は声掛けで行っている。介助を要する人には歯や舌の状態を見ながら介助を行い、記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導や、サインを見逃さないように排泄の記録を読み援助している。	利用者一人ひとりに合った排泄援助を行っている。排泄パターンを把握し、パット、リハビリパンツ、オムツ、ポータブルなどを使い分け、適切な誘導を行い、失敗による羞恥心の排除に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会をしている。又、水分補給、運動、食事の工夫をしている。排便の記録を毎日行い必要時、下剤、摘便している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・一人一人の希望を聞いている(家族)脱衣所との温度差を最小限にし体の変化に注意している。 ・プライバシーを重視し可能な限り最小の介助としている。	利用者の了解のもと、異性介助もあるがプライバシーに充分配慮するよう努めている。バイタルチェックにより、入浴、清拭、足浴等配慮している。入浴後の水分補給は必ず行うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを作り、心身の安定をはかり、良眠できる様に援助している。散歩、歌、体操等		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を行い、一回毎に渡し、内服を確認している。一人一人が飲んでる薬の効果、副作用、用量等、一覧にし貼りだしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が何をしたいのか、できるのか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。(職員一人一人のエピソードを記録し理解している。)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あたたかい季節には職員が付き添いながら数人のグループで散歩に出かけるようにしている。	年々自立歩行の困難な方が多くなってきている。事業所内に閉じこもらないように支援をするということから、車いすでの事業所周辺の散策や、近くの堤の桜見物や白鳥見物、レストランでの食事会などに出かけ、外部の人と接する機会を多く作るようにしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を聞きながらお小遣いの使い方について支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたい方については、電話をかけてあげたり、本人からの伝言を伝えたり、本人の意向に沿った支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビングの音、光、色・広さ、温度に気を使いテーブルの配置を考えて、大人数で、少人数で楽に過ごせるよう工夫している。	リビングの暖房は、北欧製の薪ストーブを使い、やわらかい暖かさが感じられる。照明はLEDを使っている。乾燥期には、加湿器を各所に設置して、インフルエンザ予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方などを工夫して、独りでも友達同士でも好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものなどは、入居当初から、或いは、必要になった時に持ち込んで居心地の良い居室となっている。	各居室にエアコンが設置されている。私物の持ち込みは自由としていて、利用者によりテレビ、こたつ、いすを持ち込んでいる方もいる。壁には写真、自作の作品など飾るなどして思い思いに生活を楽しめるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所などわかりやすい表示を取り入れ、手摺、つかまり棒など工夫して設置し生活への配慮がされている。		